

2008年10月入職

きのしたじゅんこ  
木下純子

## 患者さまのお気持ちに寄り添った医療を

### 患者さま個々の「生活史」から、最善の方法を探して

私は日々の業務の中で「病みの軌跡」という考え方を常に意識するようにしています。この「病みの軌跡」とは、慢性の病気管理のための看護モデルのことで、慢性の病気は長い時間をかけて多様に変化していく1つの行路をもち、その行路は方向づけたり、調整することができ、随伴する症状を適切にコントロールすることによって、それ自体を延ばすことや安定を保つことが可能であるという考え方です。医療従事者は方針を「点」として決めがちですが、患者さまにはそれぞれに長い生活史があります。治療はあくまでその延長線上にあるものであり、例えば患者さまから提案されたことが医療のスタンダードから外れていたとしても、その方なりの成功体験があるのかもしれませんが。その人ごとにある治療との最善の付き合い方を見つけるためには、ときには教科書的な道筋から逸脱することも必要だと感じています。

患者さまの価値観やライフスタイルを把握するためには、ご本人はもちろん、ご家族との対話も欠かせません。患者さまの背景を紐解いていく中で、「ご家族の方が少し介護に疲れていらっしゃる」というような情報もあります。患者さまが置かれている状況は、そういった一つひとつの要素が円環的に作用して形成されるもの。患者さまの家庭状況や揺れ動く気持ちに対してタイムリーに寄り添うことが私の使命だと思っています。

### スタッフ個人に依存しない、質の高い医療の提供のために



看護師としてのキャリアはかれこれ25年以上になります。これだけ経験を積むとスタイルがある程度固まってしまう、誰かに注意されることも少なくなっていくものです。ふと我に返ったときに「自分の行動や言動は正しいのだろうか」と思い、これまで経験だけで培ってきたものをアップデートすべく、意を決して思いやりエキスパートに立候補しました。

一番の発見は、自分ひとりでは本当に患者さまのためになる治療は提供できないということです。「先日体調が良くなかったけど、木下さんがいなかったから相談できなかった」という言葉は個人としては嬉しいことのように感じることもありますが、その日に相談できなかったことが原因で症状が悪化したかもしれないという可能性も否めません。個人に依存することなく、質の高い医療を安定的に提供するためには、チームとしての底上げを日々図ることが大切なのだと感じました。皆で同じ意識を共有するために、エキスパート研修で学んだことを積極的にアウトプットしていきたいと思っています。



共感性高く  
人とのつながりを  
大切に

木下純子